

第1回 NITS 大賞（平成29年度）エントリーシート

愛知県豊川市立国府小学校

C-39

【活動名】 小学校教諭と高校教諭による立ち合い授業で授業力について考える校内研修

11月2日（木）15：00～16：45（105分）実施

解決すべき課題： どのような問題を解決しましたか？

授業を構成する要素を明確にし、よい授業をするために必要な要素を検討する中で、実践的指導力の向上を目指す。

目的や背景： 解決すべき課題の背景や、活動の目的をおしえてください

平成29年に愛知県教育委員会から出された『愛知県の教員育成』で「愛知県の教員の状況は、大量退職・大量採用が続いたことで、現在、採用後5年までの教員が約23%、10年までの教員が約44%と、若手教員の割合が非常に高くなっており、こうしたことから、実践的指導力や学び続ける意識を持った人材育成が大きな課題となっております」と述べられている。本校も担任を持っている教員だけで考えると、若手教員の割合は50%を超える。前掲の資料で繰り返し述べられているのが「実践的指導力」である。本活動は、立ち合い授業と研究協議会により実践的指導力の向上に焦点を当てた取り組みである。

活動内容： 何をしましたか？

1 小学校教諭による道徳の授業

テーマ：台湾のために尽くした3人の日本人



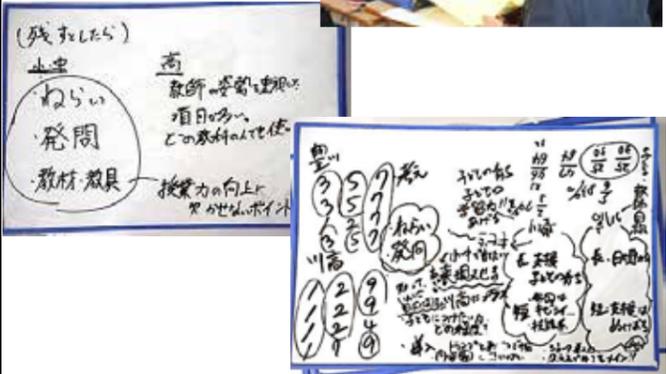
2 高等学校教諭による道徳の授業

テーマ：国民性の違いと他者理解



3 研究協議会

- (1) 趣旨説明
- (2) グループ協議
- (3) 発表
- (4) 指導・講評



ポイント1 中学校と高等学校との連携

本活動は、豊川市立西部中学校と豊川高等学校の教諭と連携した。授業者を小学校教諭と高等学校教諭が、協議会のコーディネーターや指導・講評を中学校の教諭が務めることで、小中高の教諭が一体となって研修に取り組めるよう工夫した。

ポイント2 立ち合い授業による研究授業

本活動は、小学校教諭と高等学校教諭の立ち合い授業という形式で行った。立ち合い授業のメリットは、同じ子どもたちに違う授業者が連続して授業をすることで、授業力の違いを明確にできる点である。その際に、条件を2つ設定した。1つは、「教科・領域を同一にする」ことである。教科・領域を同一にすることで、教授行為に込められた意図の違いが分かりやすくなるようにした。もう1つは、「飛び込み授業として行う」ということである。お互いに自分の担任ではないクラスで授業を行うことで、2人の授業者の条件が平等になるように工夫した。

ポイント3 2種類の授業評価シート（別添資料1）の活用

本活動では、豊川市教育委員会作成の授業評価シート（A）と高等学校教諭の作成した授業評価シート（B）の2種類を活用して2つの授業を参観できるようにした。評価項目の違うシートを活用することで、授業を多面的・多角的に見ることができるよう工夫した。

ポイント4 協議会のグループ分けの工夫

参観者を右図のように2つのグループに分けて協議会を行った。同じ授業を違う評価シートで評価して、評価の違いを検証できるようにした。協議会では、グループ1とグループ2が2人ずつになるようにグループ分けをし、評価の違いについて協議できるように工夫した。

	グループ1	グループ2
授業者	Aシート	Bシート
授業者	Bシート	Aシート

ポイント5 ミニホワイトボードを活用したグループ協議

協議会では、ミニホワイトボードをグループに1枚、ペンを全員に1本用意した。全員が書き込める環境を整えることで、参観者が主体的に参加できる場を設定した。左写真のように意見をまとめたり、気付いたことをメモしたり、グループごとに工夫して意見を集約できるようにした。

活動の成果： それによって、どんな成果が得られましたか？

アンケート結果（5段階評価）

- (1) 本研修で、新たな視点を得たり、新たな考え方に触れたりすることはできましたか。 平均 4.39
- (2) 今後の授業に生かせる点はありましたか。 平均 4.51

上記の結果から、本研修が授業力について考えるきっかけとなり、今後の実践的指導力の向上を目指すものとなったと考えられる。

グループ協議では、特別支援教育を担当する教諭が特別支援の視点からの授業を分析した。校種や役職、経験年数の違いなど、それぞれの立場からの意見が出され、活発な協議となった。また、発表の場面では、授業を構成するポイントとして同じ項目を挙げるグループが複数あり、授業で大切にすべき要素の共通点を見出すことができた。

参加職員からは、授業力に関する多数の感想を得ることができた。（別添資料2）

アピールポイント（アイデア）： もっとも、がんばったこと、注目したことをアピールしてください。

同じ子どもたちに2人の授業者が連続して授業を行うことで、教授行為に込められた意図の違いを明確にすることができた。

2種類の授業評価シートを活用することで、授業を多面的・多角的に分析できるよう工夫した。

小学校と中学校、高等学校の教員が一堂に会して研究授業と研究協議会を行うことで、様々な立場の視点から授業を分析することができた。

<添付資料1：授業評価シート（左：豊川市教育委員会作成、右：高校教諭作成）>

豊川の授業チェックリスト

めざせ！
授業力向上！

()月()日()限目()年()組 授業者()

教科等() 単元名()

ポイント	チェック内容	大変よい	がんばろう
1	あいさつ	元気なあいさつで授業がスタートできましたか	4 3 2 1
2	学習規律	学習規律（時間を守る、授業の準備、返事、話し方・聞き方）が守られていますか	4 3 2 1
3	ねらい	その時間で何を学ばせたいのか、授業のねらいがはっきりしていましたか	4 3 2 1
4	課題	学習課題を子どもたちに明確に示しましたか	4 3 2 1
5	考えをもたせる	課題に対する自分の考えをもたせることができていましたか	4 3 2 1
6	考えを表現する	自分の考えを表現する活動を取り入れていましたか	4 3 2 1
7	発問	さまざまな考えを引き出したり、思考を深めたりするような発問ができましたか	4 3 2 1
8	教師の姿勢（授業展開）	子どもの考えを生かして授業を進めていましたか	4 3 2 1
9	教師の姿勢（子どもの受容）	子どものよさを認めるような言葉がけやそれぞれの子どもに合わせたかわりができていましたか	4 3 2 1
10	教師の姿勢（話し方）	声の大きさや話すスピード、抑揚、表情など、話し方を工夫しましたか	4 3 2 1
11	板書	子どもたちの考えが分かる構造的な板書になっていましたか	4 3 2 1
12	教材・教具	異体物やICTを効果的に使って授業を行いましたか	4 3 2 1
13	机間指導	明確な意図をもって机間指導をすることができましたか	4 3 2 1
14	ふりかえり	学んだことを実感できるような授業のふりかえりの時間を確保しましたか	4 3 2 1
15	ノート指導	ていねいなノート指導がされていますか	4 3 2 1
16	個への支援	支援が必要な子に対する手立てを用意できていましたか	4 3 2 1

感想等

参観者()

【Bシート】

参観者()

評価項目	得点 (○をつける)
1. 子どもに伝わる分かりやすい発問	3 2 1
2. 子どもの活動を促す指示	3 2 1
3. 授業にあった教師の表情 (基本的には笑顔で授業をしているか)	3 2 1
4. 場にあった声の出し方 (全体に通る声、明確な発音)	3 2 1
5. 子どもと目が合うか	3 2 1
6. 場面に応じた立ち位置 (発問の時には体を止めている、意図のある立ち位置)	3 2 1
7. ロジックのある机間指導 (意味のある動き方、公平さ)	3 2 1
8. 心地よいリズムとテンポ	3 2 1
9. 適切な個別対応 (褒め言葉、切り返し、不規則発言への対応)	3 2 1
10. チャイムで始まり、チャイムで終わる	3 2 1
感想等	合計
	/30点

<添付資料2：参加者の感想>

お忙しい中、いろいろな準備等、大変だったと思いますが、とても勉強になりました。授業力ということについていえば、初めて出会う子どもたちをひきつけて、ねらいに迫る。その教師の力量を見せてもらった気がします。つまり、どのクラスでも子どもをひきつけ、ねらいにせまる学習をさせることが力量なのだと思います。教材選定、教師の姿勢、ICTの活用など、すべてが授業力なのだと感じました。

準備、教材研究、場の設定など、長い期間お疲れさまでした。授業力について考える会ということで、多くのことを学びました。導入で興味を引く話題でひきつけられ、指名で飽きさせないところ、ロールプレイをまじえたもので、どの子も引き込まれていました。

2つのチェックリストを比べたり、必要なことを選んでみたりする中で授業の中で、どんなことが大切か。また、自分の中で何を大事に考えているかを見つめ直すことができました。小学校の先生も高等学校の先生も、どちらも大人も引き込まれる素晴らしい授業でした。もっと見たい授業でした。

小中高の連携、そして私たちが日々の授業で意識すべき授業評価について見直すことができるともよい機会になったと思います。協議会でせっかくグループごとに「3つに絞るなら」について話し合い、出し合ったので、「国府小では、この3つを重点項目にしよう」と現職研修で一度話し合い、全教員の共通理解をして取り組んでみていいのかなと思いました。

自分のクラスの子たちの今までに見たことのない面を見た。簡単な発問なら順に当てていくと、みんな参加できると思った。子どもたちも常に授業に集中していて勉強になった。

導入や進み方など、子どもがやろうと思える授業ですごいなと思いました。授業のテンポ、二択で子どもたちに投げかけて全員参加できるようにすることは、なるほどと思いました。お二人の授業を見せていただいて、このような道徳のやり方があるのだと新しい発見をさせていただきました。

二択を挙手させることで全員参加ができ、テンポよく進んだので、子どもたちが集中して内容に取り組んでいた。教材研究がしっかりされていたことやICTを活用した授業で勉強させていただきました。

個人的には、リズムとテンポはとても大切だと思っています。速いテンポばかりがテンポでないので…。短い指示で子どもをのせていく力をつけていくことは大切だと思うし、今日もそう思いました。

とても興味深い授業でした。道徳の授業のもっていきかたを二人の先生の違うアプローチの仕方から学ぶことができました。

充実した研修ありがとうございます。今日の授業を参観して、指示の大切さを強く感じました。わかりやすい、はっきり、短い指示、発問をすることで、飽きない、わかりやすい授業になると思いました。

全く知らないクラスで授業をする向山先生、有田先生、野口先生の授業を思い出しました。（テンポのある魅力的な授業でした）やはり、それだけの準備をして、臨まれたことはすごい。子どもも参観者もひきつける内容。子どもは集中しているし、「赤字を読ませる」という活動が入るから、締まります。

大変リズムが良く、ペア、指名とテンポよく発言もできていました。ノートにすぐ書かせる活動も意識して入れているのでとても参考になりました。